

令和2年度公益財団法人国際エメックスセンター事業計画

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス13）の開催等

エメックス13の開催については、ECSA58会議との共同開催となるため、ECSA事務局と会議運営等について協議調整を行い、また、多くの関係者が参加するよう広報に努める。なお、英国での開催は初めてとなる。

【エメックス13の概要】

〔名称〕 第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 13）
〔時期〕 令和2年（2020年）9月7日（月）～9月11日（金）
〔場所〕 英国・ハル大学
〔主催者〕 国際エメックスセンター
〔共催者・現地事務局〕 河口域・沿岸科学学会（ECSA）事務局

① 「ICM and Satoumi」特別セッションの開催

エメックス13の特別セッションのひとつとして「ICM and Satoumi」特別セッションを開催する。柳 哲雄 九州大学名誉教授が座長を務め、研究成果の発表や意見交換を行う。

② 海洋プラスチックセッションの開催

近年注目を集めている海ごみをテーマとしたセッションを開催し、研究成果の発表や意見交換を実施する。

③ 青少年環境教育交流(SSP)セッションへの学生の派遣

第6回エメックス会議（平成18年（2006年）バンコック）以来、継続実施されている「青少年環境教育交流セッション」への参加者として、日本から学生4名を選考し、派遣する。

イ 科学・政策委員会の開催

〔開催時期〕 令和2年（2020年）9月6日（日）（予定）

〔開催場所〕 英国・ハル市（予定）

エメックス13の開催運営、エメックス14の開催地の紹介を行うとともに、エメックス活動の今後の推進等について、海外専門家等の知識・経験をもとに

検討調整を図るため科学・政策委員会を開催する。

ウ 国内外機関との連携

国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、ECSA（河口域・沿岸科学学会）、PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）、MEDCOAST財団等海外関係機関との連携・充実を図る。

① ECSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

ECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association、河口域・沿岸科学学会）主催の国際会議「ECSA58」との共同開催という形をもって、エメックス13を開催することから、引き続きECSAとの情報交換等を行い、連携を強化する。

② PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

エメックスが非政府パートナーとなっているPEMSEA（Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）との情報交換等を進め、連携を強化する。

③ MEDCOAST財団との連携

オーザン科学・政策委員が代表を務めるMEDCOAST財団との情報交換等を引き続き行い、連携を強化する。

④ SDG14の海洋行動コミュニティでの連携

平成30年11月、タイで開催したEMECS12のパタヤ宣言において、「国際エメックスセンターはリーダーシップを発揮するため、国連の持続可能な開発目標：海洋および海の資源の保全と持続可能な利用（SDG14）において、ボランティア・コミットメントの登録を目指すことにしている。」と表明し、平成31年2月にボランティア・コミットメントを登録した。

SDG14の目標に沿った活動を引き続き実施する。

⑤ NPO法人里海づくり研究会議との連携

松田 治エメックス副理事長が理事長を務めるNPO法人里海づくり研究会等と連携し、全国里海シンポジウムを開催し、里海づくりに関する情報交換や取り組み事例の紹介等を行い、国内の取り組みを推進する。

〔開催時期〕令和2年（2020年）10月

〔開催場所〕宮城県

エ 調査研究事業

① 研究プロジェクトの企画・提案活動

若手研究者の活動を支援するための研究活動費の助成制度を創設し、客員研究員の指導の下、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む若手研究者の育成を図る。

また、客員研究員による共同研究プロジェクトの企画・提案に基づき、調査研究の実施や外部資金獲得に向けて準備を進める。

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している生物共生護岸や人工干潟等の実証試験施設を研究の場として市民活動団体等に提供する。

2 情報収集整備活用事業

ア インターネットによる情報発信等

リニューアルしたホームページや海外の閉鎖性海域に関する調査研究などの情報収集によりデータベースの充実強化を進め、令和元年度に立ち上げたFacebook等によるタイムリーな情報発信を行い、エメックスの認知度向上を図る。

イ エメックスニュースレター等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュースレター」（日本語・英語）の内容を一層充実して情報発信を行う。

また、メール配信システム（メルマガ）を利用して、会議やイベントの開催案内などを行う。

ウ パンフレットによる情報発信

令和元年度に内容を充実・更新した日本語版、英語版のパンフレットを活用した情報発信を行う。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 関係団体とのネットワークを通じた若手研究者の発掘

国内外の関係団体とのネットワーク等を通じて、若手研究者を発掘し、新たな研究プロジェクトや若手研究者育成の可能性拡大を図る。

イ 青少年環境教育交流(SSP)セッションへの学生の派遣（再掲）

第6回エメックス会議（平成18年（2006年）バンコック）以来、継続実施されている「青少年環境教育交流セッション」への参加者として、日本から学生4名を選考し、派遣する。

ウ 統合的水環境管理研修（JICA研修）

国際湖沼環境委員会（ILEC）が国際協力機構（JICA）から委託を受けて実施する開発途上国行政官向けの「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」研修について、沿岸域管理に関する研修を担当する。

エ 海の環境学習人材育成事業

尼崎港内の人工干潟等を活用した環境人材育成活動を推進するため、引き続き徳島大学をはじめ地域の環境団体やNGO、専門家とともに事業を推進していく。

オ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。